

6年生

教科	成果	課題	重点取り組み
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・学年全体として読書の習慣が身に付きつつある。読書のジャンルも広がってきた。 ・調べ学習では積極的に本や資料を活用しようとする姿勢が見られるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎漢字の読み書き等、語彙の定着に課題がある。 ・要旨の明確な文章を書くこと。 ・文章を書く際、同語反復を繰り返してしまう児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字学習に重点を置く。小テストを定期的に行う。 ・他教科の学習時にも、習った漢字を書くように指導する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・量感を養う活動を単元ごとに取り入れ、身体や身の回りのものを基準に量感を養うことができた。 ・ペアやグループで自分の考えを伝え合う活動により、様々な思考過程や友達への考えの良さを取り入れることができるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の定着度合いの個人差が大きい。 ◎学習した直後は、内容を理解し、正答率が高いが、時間の経過とともに正答率が下がってしまう現状がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の学習内容を支える既習事項の定着の度合いに応じて、適宜復習の時間をとり、児童一人一人にわかる実感をもたせるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材を活用することで、課題に対する関心が高まった。 ・郷土資料館に見学に行くなど、実物に触れ学習への興味・関心を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科の用語の定着が不十分で記述できない児童が多い。 ◎歴史的事象のつながりや時代背景を把握することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事象の暗記ではなく、なぜそのような出来事が起きたのか、歴史的事象の理由を明らかにして時代背景を踏まえた学習を行う。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・映像資料を効果的に使ったことで、理科の学習用語が定着してきた。 ・身の回りの事象や経験をもとに実験の予想を立てることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎天候や行事の関係で実験の時間を十分に確保することができなかったこともあり、実験の意味を理解したり、実験結果から考察したりすることが苦手な児童が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書にある実験をただ行うのではなく、予想を確かめるための実験方法を児童に考えさせてから実験の計画を立てたり、学習内容の定着が不十分だった単元の実験を再度行ったりする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱・器楽では、一斉指導やグループ活動を通して音色や奏法に注意しながら演奏することができた。 ・表現したい自分の思いやイメージをもち、それを生かした歌い方を工夫できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽合奏では、各声部の役割を理解したりして演奏できるようするのが課題である。 ◎楽譜を読んだり、音楽記号を理解したりして、演奏に生かすことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常時活動として、クイズ形式で音符を読む活動や、リズム遊びを行ったりして、音楽記号や楽譜に楽しみながら親しめるようにする。

<p>図工</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いをそれぞれの工夫を取り入れて形にできる児童が多い。 ・ワークシートやイメージスケッチを活用し、作品イメージを具体的にもつことができるようになってきた。 	<p>◎制作の見通しをもって活動すること、片付けまでやり遂げること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作品制作の前に制作の過程を説明し、授業毎にどこまで進んでいけばいいかを確認して見通しを立てる訓練をしていく。片付けでは役割分段を明確にし、最後にチェックを行うことで責任をもたせる。
<p>家庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の技能や知識を生かし、縫い方や製作手順を自分なりに工夫して製作できた。 ・掃除大作戦など、学校だけにととまらず、家庭での実践にもつなげる指導ができた。 	<p>◎調理実習の片付けや作品製作の出来上がりまでを見通して活動することが難しい児童がいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手先の細かい作業を必要とする活動が苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理実習では全体の見通しがもてるよう、実習の計画を事前に立て、役割分担を明確にして活動のイメージ化を図る。
<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個々のめあてを具体的にもたせることによって、意欲的に活動する児童が増えた。 ・話し合い、学び合いの場を意識的にもち、運動に対する思考を促す時間を設けた。 	<p>◎マット運動等、基礎的な運動における技能面の個人差が大きい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投げる運動など、運動の種類ごとに個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の運動目標を明確に立て、個々の運動能力の伸びが実感できるような学習活動を行う。